

## 副首都構想について



日本では30年前から国会等移転法があり、首都機能移転の議論は何度か行われているが、未だ成案を得ていない。それと今回の副首都設置の議論がどう擦り合わさっていくのか、見えない部分もあるが、これから具体化に向け世論形成、場所選定、財源、時期などがポイントになって来ると思う。

何とか実現できる方向になるよう、この構想案もさらに熟度を高めていければと思う。その観点から2点、私なりの意見を述べさせて戴く。



### (1) 構想の背景、理由づけについて

副首都の理由づけに「国家の危機管理」と「東京一極集中是正」の2つを挙げているが、これでは少し物足りなく、もっと大きなバックグラウンドの話が必要だと思う。国土構造を変えると国づくりの話だという点を加えたらどうか。

現在のように全ての高次中枢機能、人の流れ、経済が東京に一極集中・集積していく姿を「1つの丸のような国の形、サッカーボールのように円」に例えるなら、これからは、極は1つではなく、2つあった方がよい。「ラグビーボールのような楕円型の国土構造に変えていくことが望ましい」との理由づけをしたらどうか。

## 円から楕円の国家構造へ



この議論は、既に60年前、この会の特別顧問でもあった塚屋太一先生が『日本の地域構造』（1967）という本で主張している。当時インパクトのあった提案で全総計画などにも生かされているが、そこでこう述べている。

——①近畿中部と南関東は、恵まれた自然条件にあり「天賦の首都適地」にある。②明治以降これまで日本は、東西に2つのしかも性格の異なった都市があり、経済と文化の間で相互に刺激し合い大きな効果をもたらしてきた

しかし残念ながら、戦後、③高度経済成長で東京一極集中が著しくなり、円の形の国に変わってしまった。④ここはもう一度、日本本来の姿である楕円構造の国を回復する政策を採るべきだ。⑤楕円は円と違って、2つの中心を持つので強い国土構造になる。東京と大阪という、2つの対等な経済圏をもつ都市同士が楕円型の国土構造を形成することで、日本は新たな発展が期待できる。

——こう述べている。

## 池口小太郎(堀屋太一)の楕円構造論



さいわい今は、その楕円型国土構造が可能となるような交通インフラ、ハードインフラの整備が進んでいる。

東京、大阪は東海道新幹線に加え、日本海側から北陸新幹線が近畿へ入ってくる。リニアで東京—名古屋—大阪が1時間でつながる。こうして東京と大阪の2つの極がしっかりすれば、日本全体の国土は強靱化し活性化してくる。

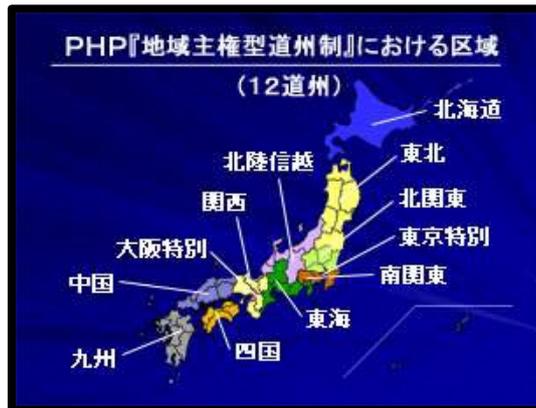
このハードインフラの条件が整ってきていることを活かす、ソフトインフラの整備をやることがこれからの課題。新たなソフトインフラ、つまり統治の仕組みを創ること。ご提案の大阪副首都構想は、まさにその楕円形構造の日本をつくっていくソフトインフラの切り札となるとみる。そこで敢えて申し上げるなら、ここは首都、副首都といわず、第1首都、第2首都と呼んでもよいのではないか。副首都、バックアップなどと遠慮することはない。

## (2) 次の日本の姿、道州制を進める時にある という点について

もう日本は、明治23年に始まる馬、船、徒歩の時代、人口増の流れが始まった時代につくった47府県体制から決別する時。人口が3分の2、ないし2分の1に減ることが想定されているが、統治のしくみは財政も含め旧態依然の膨張体質を変えられないでいる。いつまでも60兆円も使う47都道府県体制をとる時代ではないだろう。各県が同じことを整備する、フルセット行政は壮大なムダ。ここは広域自治体を10州+2都市州に賢く畳む改革が不可欠。すると30兆円で済むことになる。理論的に言うと、実際都市と行政都市は一致していなければならない。しかし今の状況は、実際都市に当たる生活圏、経済圏が広域化しているのに、行政都市である府県は旧態依然で然も高い壁を作って「狭域自治体」に成り下がってしまっている。広域自治体への再編が不可避だということ。ここに取り組むのが、次の国政の大きな改革テーマだと考える。

人口が1億人以上の国で連邦制を採用していない国は少ない。次の日本は連邦制に近い道州制国家に変わるべき。そこで楕円の両翼に2つの都市州、東京都市州と大阪都市州があるという新たな国づくりをめざすべきである。

大阪は西日本の中心として州都、第2首都になる。第1首都と第2首都がよい意味で競争関係、必要に応じ補完関係にある国家像をめざすこと。



さいわい今、日本経団連が47都道府県制に代わる10の広域州からなる「道州圏域構想」を提案している。当面、都道府県を残しながら、広域圏をまとめ州の役割を持たせ（広域連合に近い組織が本部になるか）、次第に政令市、中核市を軸に成長させ、一体感が高まったところから府県を廃止し州政府に移行していく。ソフトランディングの道州制構想といってよい。副首都構想もこれに乗ったらどうか。他の経済団体も広域州として日本を再編し、核が2つあることには賛成すると思う。

これまで国会等移転法でやれなかった遷都、首都機能分散を、今度こそ「副首都構想」という形で実現すべきである。本構想の重要性はここにある。



アメリカも改革は西海岸から東へと進む。日本も西日本からしか改革は進まない。これが歴史。その点、いま出されている大阪発のこの改革構想は重要で、日本全体の次の国づくりの先兵としてこの構想が実を結ぶよう、引き続き頑張っ